

進路に関する取り組みは効果が上がっているのか 検証するための卒業生アンケートを10年間実施

芝浦工業大学柏中学校高校（千葉・私立）

芝浦工業大学柏中学校高校は大学附属の「貫校」ではあるものの、難関大学をはじめ外部受験者が多い進学校。自主的な学びを目指し、Web教材による反転授業や、チャイムなしの時間管理、手帳指導、目標達成シート、試験振り返りシートなどを導入。常に生徒が自分で課題をみつけ行動し振り返りができるように指導している。

小テストの結果も可視化 効果を検証し次へつなげる

同校では、生徒、教員、学年、学校とさまざまな立場からPDCAサイクルを重視。やりつ放しを防ぎ効果を検証する。例えばこれには、毎週行う小テストの合格率をクラス別に集計したり、家庭学習時間調査なども含まれる。

「小テストの合格率を開示するようになってから、合格率は経年で上昇しています。他のクラスと比べて数字が低ければ、危機感をもってもらうということだけでも違いますから。また家庭学習時間調査

も、生徒からすれば調査用紙にマルを付けるだけの数分の作業。ほんの少し手間をかけるだけです。結果をもって何らかの指導ができます。1年間知らん顔をして結果が悪かったということがないように、短期サイクルで客観視できるようにしています」と、進路部長の早川千春先生。こうして、学年や学校の様子を可視化し、教員一同、課題を共有できるようにしてきた。

数値が低ければやめる、ではなく 定点観測として活用

卒業生アンケート（卒業前に実施）も10年間ほど続けている。122の設問があるマークシート方式で、進路指導、キャリア教育に関する項目も多い。

例えば、同校では中学2年生から高校2年生まで、毎年全員が「全国中学校高校Webコンテスト」に出場。そのときどきで自分が興味のあるテーマでWebページを作成する。同校ではキャリア教育の環境として位置づけており、アンケートに

「これが将来に役立つと思いますか」という項目がある。昨年度、46%が役立つと思うと答えた。

これについて「半数以下だから取り組みをやめる、というような短絡的なアンケートの使い方はしません」と早川先生。どのコンテンツも、現状の中で最善と考えて実践しているため、この学年は、各取り組みを進路指導に生かしているか、バランスよく取り組んでいるかという観点でチェックする。「続けるかやめるかではなく、効果があるということから始めたのだから、その原点に立ち戻り、きちんと効果を出せているのかを見ていきたいので

教頭補佐・進路部長
早川千春先生



School Data

1980年創立／普通科／生徒数879人（男子618人・女子261人）／進路状況（2015年3月実績）
大学234人、その他54人

す」。進路実績を上げた学年、そうではない学年、それはどこに違いが現れるのかも見る。そして、結果を学年で分析し、全体会議で共有し、改善につなげる。

なお、卒業生アンケートのほか、その保護者によるアンケート、年2回の全生徒対象授業アンケートも実施。外部評価委員会によって、学校評価を外部にも公表している。

卒業生アンケート（抜粋）

- この3年間で「自学自習」の学習姿勢が身に付いたと思うか。
- 今の、本学の進路実績のイメージは何かですか。
- Webコンテストの取り組みは、あなたの将来に役立つと思いますか。
- Webコンテストあるいは課題研究による主要教科学習への影響（悪影響）は？
- クラス担任との個別面談やガイダンスの回数について。
- 進路選択を考える上で、LHRや担任面談、情報・資料提供などが役立ったか。
- 進路を実現する上で、2年次の文理分け、全体のカリキュラムや授業レベル・進度がよかったか。
- 2年次の大学見学は進路を考える上で役に立ったか。
- 2年次春休み前のOB・OG（進路）講演会は役に立ったか。
- 私立大学・国立大学の模擬授業・説明会には何回参加したか。
- 自分の進路を具体的に考えた時期はいつ頃からか。
- 自分の学習ペースがつかめず、学習がうまくいかなかった時期はいつ頃か。
- 自分の学習がうまくいかなかった理由は何か。

卒業生対象に1月に実施。学校全体に関する46項目、各教科に関する76項目からなる。各項目は「かなりそう思う」「そう思う」「そう思わない」「まったくそう思わない」の4段階評価などで、一部項目について肯定評価率と前年比を学校HP上で公表。